

## 2020年度後期 講義概要

授業科目名	感染症学・免疫学
主担当教員名	遠藤 善裕
配当学年 等	1
学習目標	<p>人間に危害を及ぼす微生物とはどのようなものか、またこれらの微生物からの攻撃に対する生体の防御システムについて学び、感染症に対する理解を深める。</p> <p>原核細胞と真核細胞、およびウイルスの特徴を説明できる。</p> <p>微生物が病気を引き起こす機序を説明できる。</p> <p>微生物の感染経路を分類し説明できる。</p> <p>生体の防御機構について非特異的、特異的に分けて説明できる。</p> <p>感染症の予防、治療について説明できる。</p>
授業概要	<p>感染症とは微生物が寄生することによっておこる疾患である。我々の身边には夥しい数の微生物が棲息しているがヒトに寄生する病原微生物（寄生体）の数はごくわずかであり、殆どの微生物はヒトに無害である。しかし、平素は無害な微生物の中には宿主であるヒトの免疫系の機能が低下すると寄生体に変身するものがあり、いわゆる日和見感染をおこす。感染症とは宿主と寄生体の相互関係において寄生体が優位に立った状態と考えることもできる。さまざまな医療行為により生体防御機能が低下したヒトが集まる場所である病院では、通常的生活環境ではみられない集団的宿主寄生体関係が成立してしばしば院内感染が発生する。抗生物質が発見されワクチンが開発されたことから宿主が圧倒的に優位となる状況となり、少なくとも日本を含む先進国では、感染症はもう恐くないと考えられた一時期がある。しかし、細菌感染症の特効薬と考えられた抗生物質に対しては次々と耐性菌が出現し、また、昔ならば一地方病にとどまったようなウイルス感染症もまたたく間に世界中に広まる時世になった。地球規模で進行する熱帯雨林の伐採では、森の動物たちの間で棲息していた微生物がヒトに感染する機会を得て、新たなしかも重篤な疾患をひきおこしている。このように近年変貌しつつある感染症を概説し、これに対する対策について考察する。□</p>

### 授業内容

年月日(曜)	時限	担当教員	項目	内容	課題 有・無	授業形式 (原則、対面。)
令和 2年10月08日(木)	5 時限	遠藤 善裕 旦部 幸博	微生物とはどのようなものか(1)	細菌・真菌	無	対面
令和 2年10月15日(木)	5 時限	北川 善紀	微生物とはどのようなものか(2)	ウイルス・原虫	無	対面
令和 2年10月22日(木)	5 時限	旦部 幸博	感染の成立と宿主の関係	感染と発病 感染源と感染経路 常在細菌	無	対面
令和 2年10月29日(木)	5 時限	旦部 幸博	感染症の予防と治療	感染症法 滅菌・消毒 化学療法薬	有	対面
令和 2年11月05日(木)	5 時限	北川 善紀	生体防御機構(1)	免疫のしくみ(1)	無	対面
令和 2年11月12日(木)	5 時限	北川 善紀	生体防御機構(2)	免疫のしくみ(2) ワクチン	有	対面
令和 2年11月19日(木)	5 時限	旦部 幸博	微生物各論(1)	細菌・真菌	無	対面
令和 2年12月03日(木)	5 時限	北川 善紀	微生物各論(2)	ウイルス・原虫	有	対面
授業形式・ 視聴覚機器の利用	液晶プロジェクターによるスライドと資料プリントを中心に授業を行う。また自主学習の教材としてWebclassでの小テスト（自習用）や短いレポート課題（提出期限1週間程度）を出す。					
評価方法	上記の課題と自習状況の評価に加え、学習目標にあげた項目の全範囲を対象としたマークシート式の筆記試験によって行う。60点を合格点とする。再試験は1回のみとする。					

<p>教科書・参考文献</p>	<p>資料プリントを中心に授業を行う。</p> <p>参考書（教科書的なもの）</p> <p>系統看護学講座 専門基礎6 疾病のなりたちと回復の促進[3] 微生物学 医学書院</p> <p>スタンダード微生物学 土肥義胤、山本容正、宇賀昭二 著 文光堂</p> <p>戸田新細菌学 吉田眞一、柳雄介、吉開泰信 編 南山堂</p> <p>はじめの一步のイラスト感染症・微生物学 本田武司／編 羊土社</p> <p>絵でわかる感染症 岩田健太郎著 講談社</p> <p>新書</p> <p>「感染症の時代」 井上栄 著 講談社現代新書</p> <p>「感染症と文明」 山本太郎 著 岩波新書</p> <p>「寄生虫の話」 小島荘明 著 中公新書</p> <p>「細菌の逆襲」 吉川昌之介 著 中公新書</p> <p>「現代免疫物語」 岸本忠三、中嶋彰 著 講談社ブルーバックス</p> <p>「新しい免疫学」 審良静男・黒崎知博 著 講談社ブルーバックス</p> <p>「99.9%が誤用の抗生物質」 岩田健太郎 著 光文社新書</p> <p>「予防接種は効くのか？」 岩田健太郎 著 光文社新書</p> <p>「ワクチンは怖くない」 岩田健太郎 著 光文社新書</p> <p>「感染症医が教える性の話」 岩田健太郎 著 ちくまプリマー新書</p> <p>「ウイルスは生きている」 中屋敷均 著 講談社現代新書</p> <p>単行本</p> <p>「あなたを狙う感染症」 本田武司、飯島義雄 著 小学館</p> <p>「感染症とどう闘うか」 清水文七 著 東京化学同人</p> <p>「エボラ出血熱とエマージングウイルス」 山内一也 著 岩波書店</p> <p>「免疫・「自己」と「非自己」の科学」 多田富雄 著 NHKブックス</p> <p>「麻疹が流行する国で新型インフルエンザは防げるのか」 岩田健太郎 著 亜紀書房</p> <p>「新疫病流行記」 濱田篤郎 著 バジリコ(株)</p> <p>「細菌と人類」 ハンセン&amp;フレネ 著 渡辺格 訳 中央公論新社</p> <p>「ウイルスの反乱」 R.M.ヘニッグ 著 長野敬、赤松真紀 訳 青土社</p> <p>「人類と感染症の歴史」 加藤茂孝 著 丸善出版</p>
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>今年度はコロナ対応カリキュラムのため自主学习用に、参考書の最初に挙げた『系統看護学講座 専門基礎6 疾病のなりたちと回復の促進[3] 微生物学』を教材として強く推奨する。</p>